



自立訓練施設から地域生活への移行



2013年10月4日

国立障害者リハビリテーションセンター

自立支援局 自立訓練部 生活訓練課

自立訓練(生活訓練)の概要

- 対象者:主に高次脳機能障害の方で、自立生活を目的とした訓練が必要な方
- 訓練期間:24ヶ月以内
- 訓練時間:平日週5日
- 訓練内容:集団訓練、個別訓練、就労準備訓練
- 支援体制:SW、OT、訓練講師(Dr、Ns、PT、SP、自動車)
- 訓練目標
 - ①スケジュール管理
 - ②生活管理能力の向上
 - ③社会生活技能の向上
 - ④作業能力の向上



< 集団訓練 >



スケジュール管理
(朝、夕)



作業手順



園芸



GW



調理



メモ練習

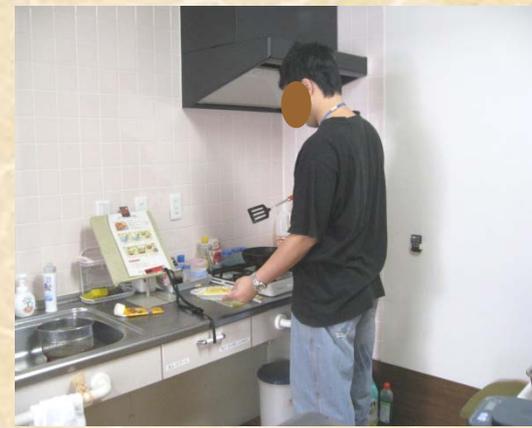


< 個別訓練 >

服薬管理



移動



生活体験 プログラム

洗濯



金銭管理

<就労準備訓練>

入力事務
文書作成



チラシ折り
おしぼいたたみ

共同作業
(簡易事務)

封入/郵便仕分け



検品/箱詰め



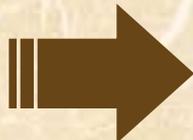
利用者の状況（H18.10～現在）

- 年齢：18才～57才 平均年齢30代
- 障害原因：主に交通事故、疾病（脳出血等）
- 障害手帳：精神、身体、知的
- 受傷から利用までの期間：200日～25年
- 出身地：全国（埼玉県、東京都が60%）
- 訓練日数：平均243日
- 帰結：
家庭復帰、就労継続、就労移行支援、職業訓練校、
復学、復職、就職など

地域支援機関の不安に対する生活訓練の支援

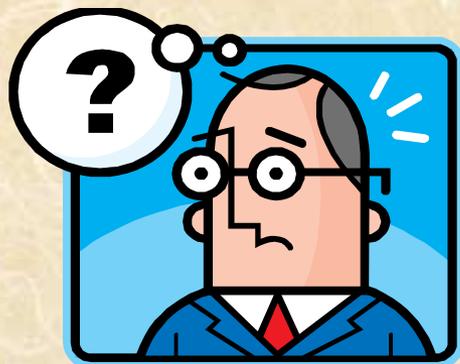
<地域支援機関>

- 障害がよくわからない。受け入れたことがない。
- 利用時にトラブルがあった。



<生活訓練>

- 高次脳機能障害について説明会をします。
- 生活訓練で明らかになった障害特性と対応方法を説明します。
- 本人に同行し、実際の作業現場で、本人が取り組みやすい作業や作業環境を提案します。
- 本人の強みと課題を具体化し、作業とのマッチングを図ります。
- 作業手順書等の資料等の作成方法を支援します。



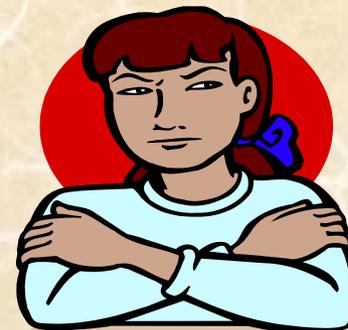
地域就労支援事業所の利用に至らなかった例

● 事例1

感情コントロールに課題があり、過去に利用していた事業所では他利用者とトラブルがあった。生活訓練では落ち着いて過ごせていたため、同事業所の再利用を調整したが、現在の本人の変化や対応方法に興味を持っていただけなかった。

● 事例2

就労継続事業所で体験実習をした。本人は利用を希望し、生活訓練では障害特性と対応方法(具体的な指示やフィードバック)を説明したが、特別な対応はできないと利用を断られた。



支援機関との連携で地域移行に繋がった例

● 事例1

相談支援センターで地域を拡大して就労継続事業所の情報収集に協力していただいた。隣接地域の事業所の体験実習においては、生活訓練で獲得した作業力を活かすこともでき、利用に至った。

● 事例2

就労意欲があり作業力もあるが、失語、障害理解に課題があった。就労支援センターと情報共有を図ると共に、作業体験実習を通じて、自身の障害への理解を深めることができた。障害特性と作業環境のマッチングを図り、就労に至った。

